

園外活動マニュアル

1.目的地の選定

- 子どもの心身の発達に見合った目的地、経路、時間を選定する。
- 道路事情により、より安全な経路を選択する。
- 当日の天候や状況、職員の人数等によって目的地の変更や戸外活動を行わないなど検討する。

2.準備

- 個々の子どもの体調を把握する。
- 子どもの衣服が活動にふさわしいか確認する。(フードや裾が広がったものは危険なのでNG)
- 散歩に出かける前にはオムツ替えを行う、またはトイレへ行く。
- 散歩車を使う場合はタイヤの空気が抜けていないか、破損部分がないか、確認する。
- 帽子をかぶっているか、靴が履けているか確認する。子ども自身で靴を履いた時はマジックテープがしっかりとまっているかを確認する。
- 散歩リュック(救急セット、ゴミ袋、水筒、紙コップ、ティッシュペーパー、オムツ、防犯ブザー、着替え1セット、タオル、おんぶ紐)とケータイを持っていく。
- 指示系統を明確にし(散歩リーダーを決める)、余裕を持った体制を取る。

3.移動中

- 列の安全を把握し、危険のないよう列の前後や間に職員がつくようにする。
- 車道側に職員がつく。歩道では点字ブロックの内側を歩く。信号は道の内側で待つ。
- 職員同士、危険を知らせ合う声かけを積極的に行う。

4.目的地

- 危険物やゴミが落ちていないか、活動前に確認し撤去する。(特にガラスや陶器の破片、タバコの吸い殻等)
- 子どもの心身の発達段階を踏まえ、安全に留意して目的に合った活動を行う。
- 公園や児童館の遊具を活用することで、子どもたちの普段の動きでは使わない力を使い、「バランス感覚」「筋力」「柔軟性」「協応動作」「空間認知力」などの力を培う。
- 危険箇所、遊べる範囲、遊具の使い方やマナーなどを職員同士で確認し、目的地に着いたら子どもたちにも伝える。
- 保育士は立ち位置や役割を決め、連携を取りながら保育にあたる。
(リーダー：つねに全体を見渡す。サブ：リーダーをサポートして動く。雑：全体のサポートをし、荷物の準備等を行う。)
- 特に0歳児クラスは、誤飲に関しゴミのみでなく小石や枝葉等の自然物にも留意する。
- 水分補給は、気候も踏まえこまめに行う。
- 不審者がいないかつねに目を配る。疑わしい人がいた場合速やかにその場を離れ、必要に応じて110番通報をする。

5 その他必要な配慮

- 人数確認を確実に行う。①出発時、②目的地に到着してから15分毎、③目的地から出発する際、④保育園に到着したら、は最低でも必ず行う。
- 出発後やむを得ず行き先や経路を変更する場合は保育園に連絡を入れる。
- 散歩の時間は職員の誰かしらが保育園に残り、緊急時の対応ができるようにしておく。

6.園外での事故の対応

- ・職員は、当該園児への応急処置・救命処置を行う者、他の園児の安全確保にあたる者、保育園に連絡を行う者に分かれて対応する。
- ・状況に応じ、園に残る職員に応援を頼んだり、速やかに帰園したりする。
- ・保育園で連絡を受けた者は、状況に応じて119番通報や保護者へ連絡したり、応援へ駆けつけたりする。
- ・緊急時事故対応マニュアルも参考に対応する。
- ・事故報告書を作成する。
- ・速やかに園内で会議を行い、散歩先の再検討も含め事故前後の分析をする。安全が確保できるまで散歩の中止も検討する。